

# 支部評議会での意見

31鳥取

支部

各項目に対する評議会での意見	意見者 (a.事業主、b.加入者 c.学識、d.評議会)	区分
1.28年度の保険料率		
<p>これまで協会から提出された数値を基に議論してきたが、5年後の想定がしづらい。そのときどきの収支に合わせて保険料率を変更していくことが理にかなっている。準備金が増えすぎると政府が口を挟んでくる可能性があることも懸念される。(鳥取)</p>	a.事業主代表	1-a
<p>最低賃金が上がっている、消費税率も上がる、事業者側は負担が増えるばかり。保険料率が下がるという朗報があれば事業者側としては嬉しい。ジェネリックの使用率上昇や健診受診率上昇により保険料率が下がりましたと言えば、被保険者側の行動が変わってくる部分があるのではないか。さらに、鳥取支部は中四国で最も料率が低い支部であり、その点をPRすれば支部加入者はより一層、協会事業に協力的になるのではないか。(鳥取)</p>	a.事業主代表	1-a
<p>下げられるときは下げたほうがよいのではないか。もともと、支部の財政に合わせた料率になるべきということで制度が始まったはず。(鳥取)</p>	c.学識経験者	1-c
<p>努力した成果が表れるべき。準備金は法定分あるので、単年度でも下げられるのであれば下げてもよいのではないか。健康保険料率は長期のスパンで考えることにそぐわないのではないか。料率を上げ下げすれば加入者に関心をもつことにつながるのではないか。(鳥取)</p>	b.加入者代表	1-b
<p>準備金は景気変動等による不測事態に対応するためのもので、過大に積み上げる必要はない。(鳥取)</p>	a.事業主代表	1-a
<p>下げられるときには下げたほうがよい。準備金もある。鳥取支部の保険料率は、鳥取支部の努力により医療費が抑制されている部分もあると思う。(鳥取)</p>	b.加入者代表	1-b
<p>健康保険組合や共済組合と比べて協会けんぽの料率が高いため、少しでも近づけていくという視点が必要ではないか。(鳥取)</p>	c.学識経験者	1-c
<p>加入者に納得してもらえること、安定的な運営をすること、の2点が重要。下げることにできれば安定的な運営ができるのか疑問。下げたことが影響して将来的に上げるようなことになれば加入者への説明が大変。国庫補助率の関係があり、政治的な場面でも下げることには注意が必要ではないか。財政の赤字構造は変わっていないので、長期スパンで考えると慎重にならざるを得ない。(鳥取)</p>	b.加入者代表	1-b

# 支部評議会での意見

2.28年度の激変緩和措置		
激変緩和率解消に近づけることが必要ではないか。協会けんぽの各支部の努力が反映しづらい仕組みは解消していくべきだと考える。（鳥取）	a.事業主代表	2-a
毎年度1.4ずつ引き上げる方針でよいのではないか。（鳥取）	c.学識経験者	2-c
平均保険料率を引き下げ中での激変緩和率1.4ずつ引き上げとなれば、平均保険料率を上回る支部への影響が少ないのではないか。（鳥取）	c.学識経験者	2-c
		2-
3.保険料率の変更時期		
4月分からの変更でよい。（鳥取）	d.評議会の意見	3-d
		3-
		3-
		3-
4.その他		
		4-
		4-
		4-
		4-